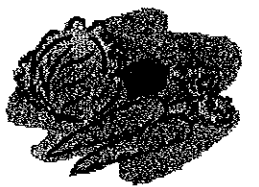


今回の学生週は「野菜を科学する」をテーマ、2月20日(月)～24日(金)と1週間にわたり、授業・行事などが行われました。(寺田:記)

教育大釧路路学生週・2月



1日目 ～久しぶりの2年生が一番バッター～

自己紹介レクリエーションの後は早速、古野峻也君による「果物や野菜の“工夫”を探る」という今回の学生週のイントロダクション的授業でした。種(タネ)の役割・保水力等の“工夫”が題材。中でもキャベツの解体が印象的。キャベツの葉を一枚一枚丁寧にはがしていき、太陽の光を少しでも受けようと葉が重ならないように付いている様子を全員で確認。キャベツの葉を最後まではがすという作業はほとんどしたことがなかったので、これには生徒も驚き。

普段、何の気も無しに目にしている野菜ですが、生き残るための工夫をしていること、それらに着目するという新たな視点を教わった時間でした。



野菜と果物の違いはなんだろう??



すごい!キャベツの葉を丁寧にはがすところだった!知らなかった!

2日目 ～4・3年生の迫力ある授業が続く～

大学4年生・三浦和樹君、小松礼佳さんによる「世界で出会った子ども達」というテーマの下、2人のこれまでの経験を語る時間となりました。大学時代、海外旅行で体験した文化の違い、そこで出会った人々の話に生徒達は真剣に聞き入っていました。「勇気を持って苦手な物事・新たに出会う人に飛び込んでいこう!」という2人のメッセージは、今の生徒達にとって大切なものでした。



[授業者のコメント] ・できる事ならば、道徳の内容にするなら個人への対応を重視すべきだった(三浦)・スクールの子も達にも、初めから学校の話ではなく違う所から入ろうという事になった。「人間・人生」を伝えることはとても難しい(小松) 注:当方のリクエストで、卒業する二人に人間科的テーマを依頼。

午後、3年生・山階啓子さんの「ニンジン、ダイコンについて」。実際にニンジン・ダイコンを見て・触れて・食べて、どのような特性を持っているのかを確かめました。試食ではニンジンの外側・内側、ダイコンの上側・下側と部位別に食べ比べて味の違いを体感しました。生徒達は生でこれらの野菜を食す機会が少なかったようで、なかなか新鮮な反応をしていました。「こっちは辛い?」「こっちは匂いが違う」と、部位毎の違いをじっくり感じ取る時間。

次いで、この味の違いの原因を原産地の温度や降水量といった環境条件から見出す作業になりました。生徒達は配布された降水量のグラフを見比べ、自分なりに仮説を立てていました。食材をあらゆる角度から見つめる、これぞまさに食育です。

3日目 ～更に2年生が初めての授業～

2年生・菊地真耶さんによる「ジャガイモについて」では、単一種を育てることの欠点を主に学習。種芋をどれだけ増やして行けるかといったゲームが用いられました。このゲームはオリジナルに作られたものだそうで、疫病が発生すると、単一種で育てていたチームは一気に損益を被る、というもの。

ゲームを通して安定した生産には多品種を育てることが大切であると伝わりました。生徒もこのゲームを気に入り何度もトライしていました。また、単一種ばかり育てていたために、飢饉が起こってしまったという実際の出来事も紹介されました。

野菜自体が持つ特性を生かしながらも、育てる人々によって工夫を凝らしていけないと上手く育たない事例を学びました。



どんな味がするかな???



ジャガイモカードゲーム開催中。どうやったら効率よく育つか?

4日目 ～楽しいレク、食育、交流～

小雪が舞い、寒い中でしたが、公園にて「雪遊びレクリエーション」を開催。ソリ滑りや雪玉当てで盛り上がった後はスクールに戻り、「軽食作り」。クレープや野菜巻き寿司を作りました。特に、巻き寿司は生徒一人ひとりが中身をどのように作るか設計図を描いてからの調理になり、切った断面を思い描いたものにどれだけ近づけるか、学生と一緒に工夫する姿が見られました。(今回は泊り会なく長時間+食育)

5日目 ～交流も、お別れも…～

最終日はこれまでに学習してきた野菜を用いて「昼食作り」。メイン料理に肉じゃがが、デザートにはキャベツ&ジャガイモクッキー、キャロットケーキも!これまでの授業で触れて、時に試食も行ってきた野菜が、調理法次第で味のバリエーションもぐっと広がることを感じました。

午後からはお別れタイムとなりましたが、ここでもちょっとしたサプライズ。今春、大学を卒業する三浦君・小松さんをお祝いしようと、秘密に用意してきた手作りアルバムや感謝のメッセージを生徒の発言と併せて贈りました。これには4年生の二人も驚き!(涙・)とてもあたたかな時間となりました。



* 別途、恒例の授業検討会2回、子ども館体験会、教師塾などを行い今年度実習終了。倉賀野教授はじめ教育大学釧路校の皆さんには感謝します。今年度4回とも来た学生も数名!たいしたものです。卒業のつどいも10名規模で参加してください(編集子)